

インラインとグリッドを理解する

本文や画像のパーツをバラバラのフレームにしていると、後からの修正対応が大変になります。ここでは本文中に画像を挿入する作業を例にして、インラインとグリッドを活用して効率よく組版する方法を説明します。

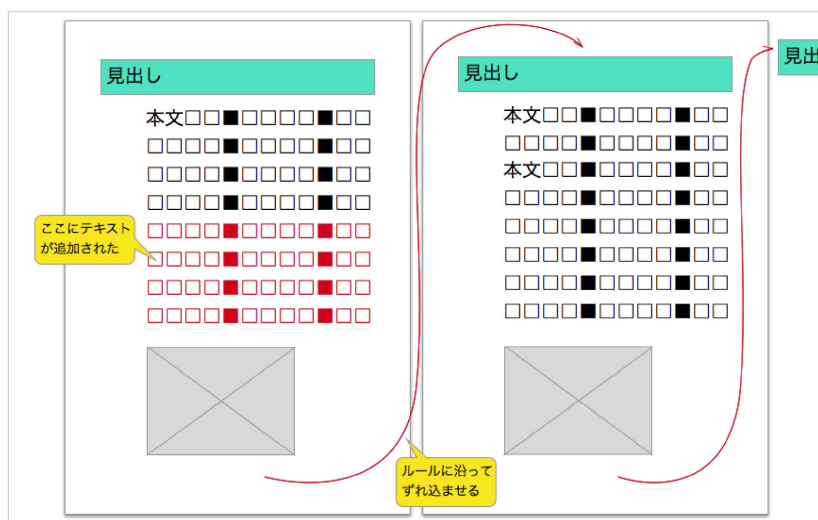
一段組みなら楽勝！というフォーマット作りを目指す

中級者向けのIT書でもっとも多いデザインは、「一段組みで文章の途中に図版やソースコードを挟みつつ、章末またはセクション末までリニアに続いていくタイプ」です。このタイプがより速く組めるようになれば、その分を校正期間に回してクオリティアップを図れるようになります。

このタイプのデザイン指定は、たいていの場合、「各パー

ツのサイズ」と「パーツ間隔」の指定になりますが、それをそのままフォーマットにはしてはいけません。

そのまま各パーツがバラバラの状態で組んでしまうと、後でテキストの追加や削除が発生したときに、それ以降を手作業でずらすことになってしまいます。



デザイン指定そのままのフォーマットでは修正が大変

InDesignのインライン機能を見直す

もともとInDesignは、テキストフレームをリンクさせて複数ページに流し込む機能を持っています。しかし、小説のような文字ばかりの本でしか使えないと思っている人が多いのではないのでしょうか？ 実は「インライン機能」を使いこなせば、かなり凝ったデザインの本でも、リンクしたテキスト

フレームを使って組むことができます。

インライン機能はテキスト中に他のオブジェクト（フレーム）を挿入する機能ですが、InDesignでは「インラインオブジェクト」と「アンカー付きオブジェクト」の2種類に分かれます。

インラインオブジェクト

テキスト中に挿入したフレームを右クリックし、[アンカー付きオブジェクト] → [オプション] を選択すると [アンカー付きオブジェクトオプション] ダイアログボックスが表示されます。

ここで [インラインまたは行の上] の [インライン] を選んだ状態がインラインオブジェクトです。



[インライン] を選択した状態

アンカー付きオブジェクト

[アンカー付きオブジェクトオプション] ダイアログボックスで [カスタム] を選んだ状態が、アンカー付きオブジェクトです。インラインよりも設定項目が増え、配置の自由度が上がっています。



[カスタム] を選択した状態